

浜の活力再生プラン
(第 2 期)

1 地域水産業再生委員会 ID : 1101048

組織名	猿払地区地域水産業再生委員会
代表者名	会長 沖野 平昭

再生委員会の構成員	猿払村漁業協同組合、猿払村
オブザーバー	北海道宗谷総合振興局、北海道漁業協同組合連合会稚内支店

対象となる地域の範囲及び 漁業の種類	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域：猿払村（猿払村漁業協同組合の範囲） ・ 対象漁業種類 <ul style="list-style-type: none"> ほたてがい桁網漁業 242 名 さけ定置網漁業 36 名 その他兼業 <ul style="list-style-type: none"> 毛がに籠漁業 9 名 ほっきがい桁網漁業 242 名 ・ 漁業者数：正組合員数 242 名
-----------------------	---

2 地域の現状

(1) 関連する水産業を取り巻く現状等

<p>猿払地区地域水産業再生委員会が所管する地区は、オホーツク海北部に位置し、明治時代からホタテガイの漁場として知られていました。その後、乱獲による極度の漁業不振を経験しましたが、村をはじめ関係機関の支援があり昭和 46 年から大規模なホタテガイ稚貝放流とヒトデ駆除等の漁場造成、その後の資源管理により「育て獲る漁業」として年間 4～5 万トンの水揚を維持しています。</p> <p>平成 29 年度の水揚実績は、47,898 t、106 億円で、ほたてがい桁網漁業、さけ定置網漁業が主力となっています。その中でも、ホタテガイの扱いは全体の 96%を占め、ほとんどの組合員がほたてがい桁網漁業を中心とした漁業経営を営んでおりますが、国内外の経済情勢等で単価が大きく変動し、漁業所得に大きな影響を与えています。当地区の水産加工品の代名詞となっている乾燥貝柱製造の中心施設である猿払村漁協総合加工場は、平成 27 年度に新設し、順調に稼働しております。今後も処理能力の向上と更なる品質の向上に取組み、また、人口減少・高齢化等による労働者不足解消に向けた生産体制の効率化を図っていきます。</p>

ホタテガイに偏った経営を改善する多角化の一環として、宗谷管内さけ・ます増殖事業協会の指導の下、サケ稚魚の二次飼育の収容能力を増強するなど、サケの来遊増加による定置経営の安定を図るとともに、毛がに籠漁業においても資源推定を行うべく関係機関との協力体制を整備し資源の持続的な利用を目指しています。そのほか、沿岸のホッキガイ資源等の資源調査を継続し、資源の有効利用に努めています。

沿岸漁業では、ます小型定置網にトド等の海獣による漁業被害が頻発していますが、有効な対策が無い状況であります。

また、当地区には漁港が3港ありますが、ホタテガイ・サケなどの水揚げ増加と漁船大型化に伴い泊地や作業ヤードが不足し、人や車両の通行等に支障をきたす状況です。加えて、沖合海域がEU向け指定海域となったものの十分な荷揚げ用地の確保が難しい状況となっています。

漁業者の経営経費の重圧となっている漁船燃油環境については、昨今の世界情勢の不安定さから原油価格の高騰が続き、漁業用燃料はもとより資材等の漁業経費の増加を招き漁業経営を圧迫しており、経費の削減に向けた取組を進める必要があります。

(2) その他の関連する現状等

当地区では、ホタテガイの製造工場が漁協・民間合わせ7工場あり昨年実績で水揚げの40%、19,094 t 処理しており、水産業は地区の重要な産業となっておりますが、燃料の高騰や電気料金の引き上げは、ホタテガイの価格安定に寄与している各製造工場の経営にも影響を及ぼしております。また、毛がに漁場はロシアとの中間ラインに面し、近年、不審漁具等が目立ち資源管理に大きな影響が懸念されています。

3 活性化の取組方針

(1) 前期の浜の活力再生プランにかかる成果及び課題等

--



(2) 今期の浜の活力再生プランの基本方針

現状とこれまでの取組を踏まえ、水産資源、魚価、経費節減に係る対策に取組み、所得向上を目指し、漁家経営の安定を図る。

①水産資源の安定と増大のため、次のことに取り組む

- ・「ほたてがい資源管理規程」に基づき、適切な水産資源の管理を行い、水揚げの安定化を図る。
- ・毛ガニやホッキガイ資源の安定増大を図るため、試験研究機関と連携し資源量調査を実施するとともに、自主的漁獲制限を設定する。
- ・ホッキガイ資源等の調査を継続し、資源の有効利用に努める。
- ・サケ増殖事業を推進するため、導水施設の整備とともに飼育・放流技術の向上を図り健康な稚魚育成に努める。

②水産物の安定供給体制の確保のため、次のことに取り組む

- ・漁港整備推進による安全で効率的な操業の実現

③水産物の単価向上対策のため、次のことに取り組む

- ・ホタテガイのEU向け輸出拡大を目指し、安全衛生管理の強化を図る。
- ・サケの鮮度保持・衛生管理強化のための取り組みを行い、魚価の安定・向上を目指す。
- ・各種イベントでの宣伝や安全・安心な水産物であることをアピールすることで魚価の安定・向上を目指す。

④漁業経営の基盤を強化するため、次のことに取り組む

- ・漁業共済及び積立プラス、セーフティネット構築事業への加入推進
- ・船底清掃、減速航行の省燃油活動の取組による燃油消費量の節減
- ・省エネ機器等の導入推進による漁業用燃油の節減

(3) 漁獲努力量の削減・維持及びその効果に関する担保措置

- ・ほたてがい資源管理規程の設定
- ・北海道資源管理指針に基づく資源管理計画の策定（漁協）
- ・共同漁業権行使規則に基づく規制遵守による資源保護
- ・北海道海面漁業調整規則による措置

(4) 具体的な取組内容 (毎年ごとに数値目標とともに記載)

1年目 (平成31年度) 所得 0.9%向上

漁業収入向上のための取組	<p>ほたてがい桁網漁業を行う 242 名は、漁場の海底耕耘を通じて食害をもたらすヒトデ駆除の強化を図るとともに、ホタテガイのモニタリング調査等を行い、稚貝放流から育成・水揚げに至る過程での漁場の変化の把握に努める。また、漁協は、乾燥貝柱を製造するため、新たに策定する原料の搬入処理・販売計画に基づき施設を稼働し、漁協職員等を対象とした研修会を通じて一層の安全衛生管理の強化に取り組む。さらに、漁業者と漁協は、ホタテガイ EU 向け輸出の拡大を目指し、船上での作業や岸壁での水揚げ、加工場への搬送において「北海道 EU 輸出ホタテガイ管理要領」等を遵守した体制となるよう、民間加工場の関係者を交えた研修会を開催し、安全衛生管理の検証・強化を図る。</p> <p>さけ定置網漁業を行う 36 名は、水揚げ後に冷却水タンク保管や漁船の魚倉に砕氷等を投入し運搬するなど冷却効果を高めることで、水揚げ後出荷までの低温管理を徹底する。加えて、鮮度保持・衛生管理強化・サケ魚卵の歩留り向上等を図るため、漁船更新にあわせて海水殺菌装置の導入を推進していく。</p> <p>毛がに籠漁業やほっきがい桁網漁業を兼業で行う全漁業者と漁協は、ホタテガイ偏重の漁業形態から複合漁業の形態への転換を図るべく、試験研究機関と連携し資源量調査等を行うとともに自主的な漁獲制限を徹底し、毛ガニやホッキガイの資源増大に努める。</p> <p>全漁業者と漁協、及び猿払村は、町内外で開催されるイベントで宣伝活動を行い、安心して安全な水産物を生産していることをアピールすることで、水産物の付加価値向上とそれに伴う魚価の向上を目指す。</p> <p>ホタテガイ単価の 1% 向上をメインに、基準年比で 1.0% の収入向上を目標とする。</p>
漁業コスト削減のための取組	<p>全漁業者及び漁協は、燃油経費の節減を目指し次の取組を行う。</p> <ul style="list-style-type: none">・船底清掃を行い燃費の向上を図る。・減速航行による燃費の向上を図る。・燃油コストを抑えるため、燃油消費量の少ないエンジンへの機関換装を推進する。 <p>以上の取組により基準年より 0.1% の漁業経費の削減を目指す。</p>
活用する支援措置等	<ul style="list-style-type: none">・漁業経営セーフティーネット構築事業 (国)・水産基盤整備事業(国)

2年目（平成32年度） 所得 2.0%向上

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>ほたてがい桁網漁業を行う 242 名は、漁場の海底耕耘を通じて食害をもたらすヒトデ駆除の強化を図るとともに、ホタテガイのモニタリング調査等を行い、稚貝放流から育成・水揚げに至る過程での漁場の変化の把握に努める。また、漁協は、乾燥貝柱を製造するため、新たに策定する原料の搬入処理・販売計画に基づき施設を稼働し、漁協職員等を対象とした研修会を通じて一層の安全衛生管理の強化に取り組む。さらに、漁業者と漁協は、ホタテガイ EU 向け輸出の拡大を目指し、船上での作業や岸壁での水揚げ、加工場への搬送において「北海道 EU 輸出ホタテガイ管理要領」等を遵守した体制となるよう、民間加工場の関係者を交えた研修会を開催し、安全衛生管理の検証・強化を図る。</p> <p>さけ定置網漁業を行う 36 名は、水揚げ後に冷却水タンク保管や漁船の魚倉に砕氷等を投入し運搬するなど冷却効果を高めることで、水揚げ後出荷までの低温管理を徹底する。加えて、鮮度保持・衛生管理強化・サケ魚卵の歩留り向上等を図るため、漁船更新にあわせて海水殺菌装置の導入を推進していく。</p> <p>毛がに籠漁業やほっきがい桁網漁業を兼業で行う全漁業者と漁協は、ホタテガイ偏重の漁業形態から複合漁業の形態への転換を図るべく、試験研究機関と連携し資源量調査等を行うとともに自主的な漁獲制限を徹底し、毛ガニやホッキガイの資源増大に努める。</p> <p>全漁業者と漁協、及び猿払村は、町内外で開催されるイベントで宣伝活動を行い、安心して安全な水産物を生産していることをアピールすることで、水産物の付加価値向上とそれに伴う魚価の向上を目指す。</p> <p>ホタテガイ単価の 2% 向上をメインに、基準年比で 2.0% の収入向上を目標とする。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>漁協及び全漁業者は、燃油経費の節減を目指し次の取組を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・船底清掃を行い燃費の向上を図る。 ・減速航行による燃費の向上を図る。 ・燃油コストを抑えるため、燃油消費量の少ないエンジンへの機関換装を推進する。 <p>以上の取組により基準年より 0.1% の漁業経費の削減を目指す。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・漁業経営セーフティーネット構築事業(国) ・水産基盤整備事業(国)

3年目（平成33年度） 所得 3.0%向上

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>ほたてがい桁網漁業を行う 242 名は、漁場の海底耕耘を通じて食害をもたらすヒトデ駆除の強化を図るとともに、ホタテガイのモニタリング調査等を行い、稚貝放流から育成・水揚げに至る過程での漁場の変化の把握に努める。また、漁協は、乾燥貝柱を製造するため、新たに策定する原料の搬入処理・販売計画に基づき施設を稼働し、漁協職員等を対象とした研修会を通じて一層の安全衛生管理の強化に取り組む。さらに、漁業者と漁協は、ホタテガイ EU 向け輸出の拡大を目指し、船上での作業や岸壁での水揚げ、加工場への搬送において「北海道 EU 輸出ホタテガイ管理要領」等を遵守した体制となるよう、民間加工場の関係者を交えた研修会を開催し、安全衛生管理の検証・強化を図る。</p> <p>さけ定置網漁業を行う 36 名は、水揚げ後に冷却水タンク保管や漁船の魚倉に砕氷等を投入し運搬するなど冷却効果を高めることで、水揚げ後出荷までの低温管理を徹底する。加えて、鮮度保持・衛生管理強化・サケ魚卵の歩留り向上等を図るため、漁船更新にあわせて海水殺菌装置の導入を推進していく。</p> <p>毛がに籠漁業やほっきがい桁網漁業を兼業で行う全漁業者と漁協は、ホタテガイ偏重の漁業形態から複合漁業の形態への転換を図るべく、試験研究機関と連携し資源量調査等を行うとともに自主的な漁獲制限を徹底し、毛ガニやホッキガイの資源増大に努める。</p> <p>全漁業者と漁協、及び猿払村は、町内外で開催されるイベントで宣伝活動を行い、安心して安全な水産物を生産していることをアピールすることで、水産物の付加価値向上と、それに伴う魚価の向上を目指す。</p> <p>ホタテガイ単価の 3% 向上をメインに、基準年比で 3.0% の収入向上を目標とする。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>全漁業者及び漁協は、燃油経費の節減を目指し次の取組を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・船底清掃を行い燃費の向上を図る。 ・減速航行による燃費の向上を図る。 ・燃油コストを抑えるため、燃油消費量の少ないエンジンへの機関換装を推進する。 <p>以上の取組により基準年より 0.1% の漁業経費の削減を目指す。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・漁業経営セーフティーネット構築事業(国) ・水産基盤整備事業(国)

4年目（平成34年度） 所得 4.0%向上

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>ほたてがい桁網漁業を行う 242 名は、漁場の海底耕耘を通じて食害をもたらすヒトデ駆除の強化を図るとともに、ホタテガイのモニタリング調査等を行い、稚貝放流から育成・水揚げに至る過程での漁場の変化の把握に努める。また、漁協は、乾燥貝柱を製造するため、新たに策定する原料の搬入処理・販売計画に基づき施設を稼働し、漁協職員等を対象とした研修会を通じて一層の安全衛生管理の強化に取り組む。さらに、漁業者と漁協は、ホタテガイ EU 向け輸出の拡大を目指し、船上での作業や岸壁での水揚げ、加工場への搬送において「北海道 EU 輸出ホタテガイ管理要領」等を遵守した体制となるよう、民間加工場の関係者を交えた研修会を開催し、安全衛生管理の検証・強化を図る。</p> <p>さけ定置網漁業を行う 36 名は、水揚げ後に冷却水タンク保管や漁船の魚倉に砕氷等を投入し運搬するなど冷却効果を高めることで、水揚げ後出荷までの低温管理を徹底する。加えて、鮮度保持・衛生管理強化・サケ魚卵の歩留り向上等を図るため、漁船更新にあわせて海水殺菌装置の導入を推進していく。</p> <p>毛がに籠漁業やほっきがい桁網漁業を兼業で行う全漁業者と漁協は、ホタテガイ偏重の漁業形態から複合漁業の形態への転換を図るべく、試験研究機関と連携し資源量調査等を行うとともに自主的な漁獲制限を徹底し、毛ガニやホッキガイの資源増大に努める。</p> <p>全漁業者と漁協、及び猿払村は、町内外で開催されるイベントで宣伝活動を行い、安心して安全な水産物を生産していることをアピールすることで、水産物の付加価値向上と、それに伴う魚価の向上を目指す。</p> <p>ホタテガイ単価の 4% 向上をメインに、基準年比で 4.0% の収入向上を目標とする。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>全漁業者及び漁協は、燃油経費の節減を目指し次の取組を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・船底清掃を行い燃費の向上を図る。 ・減速航行による燃費の向上を図る。 ・燃油コストを抑えるため、燃油消費量の少ないエンジンへの機関換装を推進する。 <p>以上の取組により基準年より 0.1% の漁業経費の削減を目指す。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・漁業経営セーフティーネット構築事業(国) ・水産基盤整備事業(国)

5年目（平成35年度） 所得 5.1%向上

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>ほたてがい桁網漁業を行う 242 名は、漁場の海底耕耘を通じて食害をもたらすヒトデ駆除の強化を図るとともに、ホタテガイのモニタリング調査等を行い、稚貝放流から育成・水揚げに至る過程での漁場の変化の把握に努める。また、漁協は、乾燥貝柱を製造するため、新たに策定する原料の搬入処理・販売計画に基づき施設を稼働し、漁協職員等を対象とした研修会を通じて一層の安全衛生管理の強化に取り組む。さらに、漁業者と漁協は、ホタテガイ EU 向け輸出の拡大を目指し、船上での作業や岸壁での水揚げ、加工場への搬送において「北海道 EU 輸出ホタテガイ管理要領」等を遵守した体制となるよう、民間加工場の関係者を交えた研修会を開催し、安全衛生管理の検証・強化を図る。</p> <p>さけ定置網漁業を行う 36 名は、水揚げ後に冷却水タンク保管や漁船の魚倉に砕氷等を投入し運搬するなど冷却効果を高めることで、水揚げ後出荷までの低温管理を徹底する。加えて、鮮度保持・衛生管理強化・サケ魚卵の歩留り向上等を図るため、漁船更新にあわせて海水殺菌装置の導入を推進していく。</p> <p>毛がに籠漁業やほっきがい桁網漁業を兼業で行う全漁業者と漁協は、ホタテガイ偏重の漁業形態から複合漁業の形態への転換を図るべく、試験研究機関と連携し資源量調査等を行うとともに自主的な漁獲制限を徹底し、毛ガニやホッキガイの資源増大に努める。</p> <p>全漁業者と漁協、及び猿払村は、町内外で開催されるイベントで宣伝活動を行い、安心して安全な水産物を生産していることをアピールすることで、水産物の付加価値向上と、それに伴う魚価の向上を目指す。</p> <p>ホタテガイ単価の 5% 向上をメインに、基準年比で 5.1% の収入向上を目標とする。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>全漁業者及び漁協は、燃油経費の節減を目指し次の取組を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・船底清掃を行い燃費の向上を図る。 ・減速航行による燃費の向上を図る。 ・燃油コストを抑えるため、燃油消費量の少ないエンジンへの機関換装を推進する。 <p>以上の取組により基準年より 0.1% の漁業経費の削減を目指す。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・漁業経営セーフティーネット構築事業(国) ・水産基盤整備事業(国)

(5) 関係機関との連携

取り組みの効果が高められるよう、構成員である猿払村はもとより、漁協内の各部会や各関係団体との連携を密にするとともに、オブザーバーである北海道、各系統団体に支援・協力を求めながらプランの取り組みを遂行する。

4 目標

(1) 所得目標

漁業所得の向上 10%以上	基準年	平成 25～29 年度平均： 漁業所得 円
	目標年	平成 35 年度 : 漁業所得 円

(2) 上記の算出方法及びその妥当性

--

(3) 所得目標以外の成果目標

ホタテガイの水揚量増加	基準年	平成 30 年度： 水揚量	47,117 (t)
	目標年	平成 35 年度： 水揚量	51,828 (t)
ホタテガイ採捕漁船の 燃油費削減	基準年	平成 30 年度： 消費量	101,631 (L)
	目標年	平成 35 年度： 消費量	96,550 (L)
ホタテガイ採捕漁船の 修繕費削減	基準年	平成 30 年度： 修繕費	4,919 (千円)
	目標年	平成 35 年度： 修繕費	4,673 (千円)

(4) 上記の算出方法及びその妥当性

1. ホタテ貝の水揚量向上

平成 27 年の爆弾低気圧によりホタテガイ資源に被害が発生した。今後は低気圧等に影響の受けない漁場造りに取組み、安定した資源確保が必要な状況となっている。成果目標数値の漁獲量については、H25～29 年までの 5 ヶ年平均水揚を平成 35 年までに 10%向上させる目標を設定する。

【ホタテガイ水揚の推移】

(単位：トン)

	H25	H26	H27	H28	H29	平均	目標
水揚数量	49,458	57,536	42,145	40,218	46,228	47,117	51,828

2. ホタテガイ採捕漁船の修繕費・燃油費減少

現在、漁協所属で使用しているホタテガイ採捕漁船は 3 隻あり、平均船齢は 11 年となっている。年々の修繕費が増加傾向にあることから、漁協では平成 35 年までにホタテ採捕漁船 1 隻の機械を更新し、今後も計画的に更新していきます。新たな機械を導入することにより修繕費の抑制、省エネ型エンジンの導入等で基準年と比較し漁労支出の全体的なランニングコスト低減を目指し、修繕費・燃油費ともに 5%の削減に取り組みます。

【ホタテガイ採捕漁船 3 隻分の修繕費】

(単位：千円)

	H25	H26	H27	H28	H29	合計	平均	目標
修繕費	3,372	4,056	5,230	6,131	5,804	24,595	4,919	4,673

※ただし、この 3 隻については猿払村漁協協同組合所有船に限る。

【ホタテガイ採捕漁船 3 隻分の平均消費燃油量】

(単位：L)

	H25	H26	H27	H28	H29	合計	平均	目標
燃油量	89,819	98,370	99,960	117,079	102,930	508,158	101,631	96,550

5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性
省燃油活動推進事業 (国)	省燃油活動（船底清掃、減速航行）への積極的な取組みによる燃油消費の低減を図る。
漁業経営セーフティ ーネット事業(国)	燃油高騰の影響緩和を図り、漁業経営の安定を図る。
水産基盤整備事業 (国・道)	漁港の整備により効率的で安全な漁業活動を図る。